

山田正平展

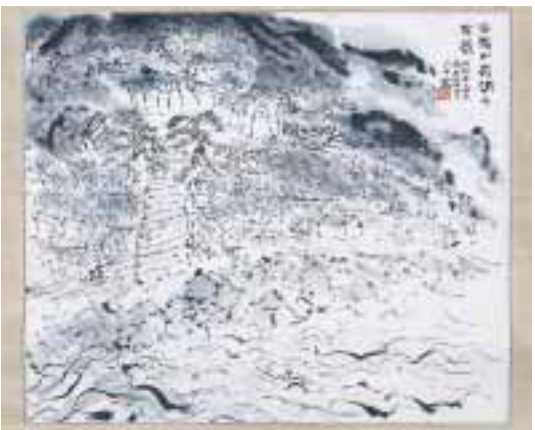
～文人に愛された篆刻家～

篆刻美術館では平成4年に「山田寒山・正平展」を開催しています。が、本年は文人山田正平（1899～1962）の43回忌にあたることから、この機に再度「山田正平展」を実施いたします。新潟の篆刻家木村竹香の次男に

生まれた正平は、15歳のときに會津八一から刻印の依頼を受けるほど、若くしてその才を發揮します。16歳で山田寒山の許に寄寓します。が、20歳のとき寒山が没したことから會津八一・滑川澹如・河井空廬等の助力で寒山の養嗣となり、徳富蘇峰の媒酌で山田喜美子と結婚し山田正平となりました。

正平の篆刻は豪放雄偉ながら叙情豊かな刻風が特徴で、會津八一・堀口大学・志賀直哉・谷崎潤一郎・武者小路実篤等文士、棟方志功・小川芋銭・中川一政等画家が好んで使用しました。日展・毎日展・日本書道

美術院展・謙慎書道展などに作品を発表し、話題を呼びました。彼は元来画が好きでしたが、茨城を代表する画家小川芋銭に出会い、その人物と画に傾倒し入門、またお茶の水の川端塾で油絵まで学び、篆刻のみならず書画なかでも



海福山最明寺全景 山田正平画 昭和16年

画にその才を發揮し、高い評価を得ています。また55歳の時東京学芸大学講師となり、篆刻によって後進を育成しています。

本展ではそうした幅広い業績も視野に入れ、刻印約330顆以外に刻字・書画を含めて紹介し、山田正平を顕彰いたします。また、正平を支えた人物や交遊関係にも焦点をあて、正平作品以外に木村竹香・山田寒山・會津八一・武者小路実篤・小川芋銭・磯部草丘等の作品もあわせて紹介いたします。ちなみに、古河出身の篆刻家大久保翠洞は正平に師事したので、正平が「大久保晴雄」「翠洞」を刻しています。